

30

20

10

5

8

JAPAN

0

1

2

3

TAMA

9

7

6

5

4

1

2

3

武江年表

六

高田

慕
牛
事

リ 5

112

6

門
卷之六
116

武江年表卷之六

明和七年庚寅 六月閏

三月十一日より湯島天満宮閑帳○四月十日より済慈寺入惣宮之東北野社
司不遜蒼祚生尊像奉地親世秀閑帳○淺草^{中野町}称念^{中野町}二五明顯^{中野町}柳
浦堂聖德太子三子佛木闍羅○四月朔日より麻布善福寺^{中野町}之越後
守田井波園瑞泉寺親秀上人宝物木洋せしむ○四月より深川吉信^{中野町}
あく奥州今津大用密^{さかうら}ち私迦如来^{さが}并帳○茅場町茶師如來閑帳
○深川津守少^{すくな}身延山奥院祖師恩子母神閑帳○四月十二日より
深川大佛勸進^{まんじん}術^{じゆ}之二月堂親世秀^{ひでひで}并寶物閑帳○永代寺^{よだいじ}之總龕
向^{むか}井端磨玉本地光^{みやこ}并帳○五月より八月近諸國^{ちかぢのくに}太旱^{おほひどり}近^{ちか}糾^{くみ}糾^{くみ}虫^{むし}之

同攻會印

俗小虫を力ナと云。稗も貴。野菜物者の價よりまし。○六月上旬星月を勢めく
閏月神奈川の鯛三昧全死海の苦惱と云ひて魚を食ふ。○六月十九日八月中旬巡回院より差
城清涼寺秋迦來開帳。○同日より一ヶ月八幡宮に旅して巡回布施。舟方
天寧院。○青山若光もて福余松本を祝せ天寧院。○今年暖暦の秋迦
開帳あり。より以ひむく。山号明阿弥君秋迦文佛内修考。一卷編輯
而り。写本ある。○閏六月朔日より山彦十王堂にて武州松山院。有
ち毘沙門天寧院。○七月廿八日夜乾の室。赤子丹のび。又幡雲出る
○八月十一日夜靈巖寺本堂焼亡。○八月廿一日巡回院にて高野山十
堰。○八月十一日夜靈巖寺本堂焼亡。○八月廿一日巡回院にて高野山十
遍名号称陀如来開帳。○八月より築地奉行。甲斐轉村。至福寺松井
坊聖徳太子開帳。○十月市谷大延ちにて雲門秋迦徽雲右清の大閣と

成リ雷電為右歩つ。き。二家のお撲鼻。○十一月十四日官医望月二英。草。麻門山
百里の。○以冬太多く死。○十一月廿六日書家小笠。草。南。草。名長。加称理。左衛
男。○

明和八年辛卯

正月廿日麻布。芝迎。近焼。○正月十四日儒師宮城龍門。草。名維翰。字田
○正月廿八日書家上田素鏡。草。字謙吉。堂。玄國。字小葵。以
あ。正月廿九日。燒。近。燒。前。助。真。先。稻。荷。の。邊。ふ。い。る。○二月十日より上野
清水素千。朝。世。芳。開。帳。○正月廿日より王子稻荷。改。神。開。帳。○三月初旬より
伊勢。宗。宮。流。行。不。謂。か。手。あ。う。う。衣。内。と。手。を。始。く。以。身。不。能。也。
木下川。茶。師。如。来。開。帳。○正月廿九日。御。荒。あ。花。社。院。か。く。武。乃。比。企。郡。若。光。
九。番。規。世。も。る。也。深。ひ。至。開。帳。○正月十一日より巡回院。にて。明。曆。大。火。燒。死。溺。
死。水。車。に。万。日。圓。而。修。行。○正月十四日。下。谷。五。条。天。神。并。天。滿。宮。開。帳。○正月廿一日

とう不恩池安才天開帳○二月廿九日おうちひ富士田根に死お次と云を母の上す
華○四月朔日より渡ま奉法あて房町東条小松原隨恩ち祖師開帳
○同日とう不恩安才天内みて慈食極不ま寂迦如東開帳○奉斎みえ楊
自性院みて信乃川東南照寺跡如東開帳○四月朔日より渡ま寺門よ
之上總望陀那大久保村大日ち大日如東熊野檜規開帳○戸崎町毎量
院玉奥乃棄折無能ち跡院如東無能上人像開帳○浅茅町源空ち
文殊井開帳○四月江戸雪落る○四月八日松産家後葛梨美平さくえい林太
と生及萬連よしの赤多・芝青ねもふ義方・文義方○四月廿三日曉寅刻吉承揚在町
細考こせんと早見宮根温泉有る温泉の紀行きこう○四月廿三日曉寅刻吉承揚在町
少火廊中焼亡けぬも九郎助稱名の社務の今戸橋場邊○五月一日地震○五月十七日
光物鬼ひきもの○五月より三股新地築立たて移うつる件又記せり○六月二日大地震
○立交浪通用止○東堵塞丸の小さく成唐茄子とうじやと号いしてちやうり出で

○薬研堀とりづるハ米沢町二丁目二丁目三十目の地先小車一入塙うつる今年
六月より十一月迄までは理立りだつ江戸町塙と薬研堀埋立うめだつと号いし○七月朔日より
塙草焼肉さやけと猪食糞谷貞昌院天滿宮開帳○七月朔日より四輪院玉
大和當麻誕生ち跡院如東開帳サ五菩薩ごふさつ東連舍修とうせん行あり○八月大風人
家多く倒おき起おれり多ひ切きりきを永代堀へ寄より太橋あるを止とど又一艘佃島と
石川島の方吹上人船ふぶきを以て皆みな死し去こり又近辺度とく出火
也よ○秋永代寺小築山泉水をこうらむ壁かべひをうそとを以近辺度とく出火
本堂も焼やす是これは壁かべの形を穿うがて女人を請うけめ多崇むろうう一いつ間まんせりひ祝
ゆきえち所山を造つくるハ永代寺の庭中ちゆうアトアト○神田佐柄木町酒店山川十右堵門
近辺の町名のりのかつぶななうそうそー○神田佐柄木町酒店山川十右堵門
御世みよ三十三軒さんさんを造つくる一いつ淺茅下谷の寺院三十二所さんじゅうに所安置あんちて限かぎり

所見

此年間記事

○儒家 宇佐美惠助備水 松崎才翁觀海 井上文平金 井上源益東溪 井上仲
 岡井郡太史暎 诗文能弥八室 细井基三郎平官卿 三石彌明 須知文平
 葛坡山人 千葉義方彌芸 二浦左吉衛瓶 大内忠右史熊耳 书家三井孫玄彌
 和澤田文二郎赤松下君嶽 石庭代木大彌師 伊若善翁益道 倶陵山人
 小河保壽 細井九臯和哥加茂 吉川義不守方 は 荷田西風 菅生女
 稲生魚彦物産 田村元雄 平賀鳩溪き 渡辺梨美△画家 特野榮川院
 細木鄰松 吉田紫喬えんじ 佐藤嵩之さとう 三浦花信きみ 諸葛監まつわら 文靜秋としふね 五
 △俳諧 萩太ひだり 存義えんぎ 買明治山田社 宮馬露十だい 浮世繪師 櫻川春章しのぶ
 一筆・秋文洞 磯田湖痴こくち 柳文朝やなぎ 小松延百窓ひろむ 井

○三井親和あいわ が篆書じゆ 井外いの 朝和深あいふか と篆字じゆじ のかくれる形を備物びもの
 事こと ある又婦女の衣類表いりゅうひょう の変化へんか ふして裏うら ふ種様しゆよう をするともある。○細身ほそみ
 狹肩せうけん ある武家ぶけ も細身刀ほそみと を用もち てもども ○土草どく といふ販賣はんばい ある。谷中たになか 釜森稻若ひのり
 境内きょうない の茶園ちゃえん 織のわせん 渋茶しづ 奥山旅店おくや 木の下楊枝店ようしじ 柳庭やなぎ のもあら
 美女めいじ の喫茶きっさ ありあり ○書伝しょでん の拂画ふげ ○曲亭玄明和二年げきめいわ の以唐山いとうさん の彩色榜いろひょう ふあくひ
 て板木いたぎ 金六きんろく とりよりの板榜いたひょう 某みくら ひね木ひねき 見面みめん を付つ する事をこと えまえま とすとすりア
 四五遍よごん の彩色榜いろひょう を製せい し出だ す。程ところ あくまでも多く板木いたぎ 事こと とうぬとちく
 蜀山翁しょざん 云此榜非く ひ焉ひ 付つ する彩色榜いろひょう の延享元年えんじょう
 に至いた て吉吉彌よしき つユヌつ と始はじ とすとすりア
 文二郎ぶんじろう 同文吾どうぶんご 板下いたした へひ彼かれ 風かぜ を立た てひて桐きり の丈たけ 再な びび とひりうが
 稚わ うく稚わ く成な なりなり ○琴曲きんく 生田おうた 檜枝ひえ 井い ある○富士因ふじいん 枫かえで 菊きく 江え 痘友とうゆ
 おお が長なが 喫く 新内しんない 而て 降お 陽ひ 井い ある○二挺鼓ふたひき ちやうちやう ○朝鮮あさひん の弘慶子こうけいし とひとひ 茶ぢ

妻市街を廻るく 柄色角袖衣袴の子美の ○ 大晦日の夜扁糱の戸か
 申すとて時代よりは寄止り ○ 肉尾菴云明和安永の以降除猫
 の繪かんとて市中を歩行へ常識の者にて名を雲友とひ 又蜀山の語一言
 白仙とりて年の年年みちに坊主と出羽の秋田ふ猫の宮あり御のよりかゝて猫と虎とを
 画きて社より其納をとひ自ら猫うなと稀と虎と爲画と稀と虎と爲画と稀と虎と爲画と
 されあるき猫ちかくといひへば入見を画しれば僕の價を乞ひ画くその猫の量を
 避へといひへ云くとあらりれり先ある 未詳

○ 幸賀施溪紅毛のエレキテルセニギー日本にて製造始む

安永元年壬辰 十月廿五日改元

二月初午後幸ち西宮稻荷神事を後モ 休む ○ 二月廿八日江戸大火坤より良
 甚アシ ○ 二月廿九日乾より西南の風烈しく土煙大を覆ひ日光勝就より午の刻
 同馬行人坂大田タカヒロより出火して承喜町通より白金生町麻布辺一条若狭
ハ本堂開山堂 二田新宿町辺狸穴坂倉市左衛門町あざれ靈南坂一筋ハ久保櫻田
 のこる

處アシが冥虎門日比谷門の傍先門櫻田門和田倉門常盤櫻門
 神田橋門木焼亡右道筋はつ内徳廣藩邸所燈と放る日中橋南ハ通
 三官町目西例元四日市町美町西河岸辺より南側の町中橋を限り上桜
 町追小へ奉町石町邊東西神田町武家方た一系小川町入に渡河基
 昌平橋筋達橋門外神田町神田社聖堂湯鷹天神社門不と通
 一系上野仁王門山王社下寺不持車坂下谷邊度小路門徒町三味線坂
 中入谷今松箕輪小塚原吉原町子住大橋向掃石窟淺草寺本堂傳法
 院并寺中馬道田町彰越橋場を通る又同日是ち二時奉令丸山町
 康徳ち通新宿阿部川町寺越邊奉令寺渋嘗淡草寺本堂傳法
 院并寺中馬道田町彰越橋場を通る又同日是ち二時奉令丸山町
 より出大して森川宿追分豹込白山傾城ハルシ入に追う多代櫻手土物店
 千太本入口根津谷中感應寺草坂根岸小屋の里翌晦日未刻此處を止る又相立晦日已

刻小風小うり或東風々成常盤楊外の大太傳る町邊馬喰町二十日迄
濱町邊櫻町草薙町あ種の芝居櫻芝居四種小網町大坂町田所町御波町
住吉町邊伊勢町鎌倉町室町通日半楊中楊京楊ふいる未刻双方の大
鶴づ姓時大雨降風強るは火より北六里幅一里大小名藩邸も院神社町極
の輕駄かみや——燒死怪家人更殺を却び上野仁玉じんよは時再度の焼亡之感焉も又重複
○吉原町佐宅今戸楊場山の宿あ玉深川八幡やまとを佃丁ひどの芳町の街絕郎けつろうも仲丁なかの役宅おき
○大大後おお後ご人坂大田おおた再建至いたそめにあり人又百羅漢の石像せきぞうを造立ぞうりつ。雪中菴蓼くわ太
模も山町やま住すうへば火ひ逃なれく深川ふから方極要津かたごくようしん中の巷きょうより『難搖なんようを急急いそいそて
青せい竹たけうみ』といふをさうと幕まくふきうへんよりせとひて百韻ひゃくいんをみそ夜よを吹ふせ——とそ

○三月又日ナリ不思無乙内いのちモト京きょう生なま如ご堂どう禱とうす稻荷いなり所ところ御開帳ごくわう

○四月十日より牛うしの所ところ前まへ王子檜ひ現あらわ御開帳ごくわう○四十九日善方天火西にしより東北ひがしへ

並なま○四月八日より小日向大日坂妙見院みょうけんいん大日如來開くわう御開くわう○魚籃觀ぎょらんくわんせ

吉開よしこ○四月より五月近諸玉疲癆ひきめい行ゆきる○四月に各肉羣にくぐん於宿すく游舍ゆうしゃ

再興さいこう所免しょめんあり甲物道中人馬縛立まくくりのふとありて繫留くわうせり○大川中洲ちゅうしゆ抄しやう尤

築立成施せいし以い町盛さかり安永四年正月金かなと金かなて金かな成なせり。家向いえむか須大榜すだいぼうより南みなみの方酒井
川岸九寸余坪敷九千石せき七坪余茅屋九十三軒せん計けい五百五十二軒せん。内四季庵よしあんと云いへ小東の隅すみの
料理庵りょうりあんと殊こと大度だいど。とそ湯屋ゆやハ三軒せんあり。主膳しょぜんの家政けいせい。一ノ瀬安永に年としより天保八年
迄まで十七年の名な。此中側なかわきの木植きひあ玉楊ぎょう。玉楊ぎょう之後のちの地じを牀のくらう。寛政かんせい五年元がんせいのごとく
朱樂夢しゆらくむはが縁えんの大板だいはん。此と並なが紙し中油ちゆうゆのゆゆをくらう。記きせり。

○七月六日画人佐脇嵩さわき之卒すく。六十才名な賢けん林甚花じんげ淡葉たんば櫻さくら院いん中ちゆう称名院けいめいん。葬くわう於水床すいとう

錢氏せんしの困苦こんく。○八月六日儒師村士淡だん英えい卒すく。名宗殖むねむし。姓林じん。淡葉たんば櫻さくら院いん中ちゆう称名院けいめいん。葬くわう於水床すいとう

工太森英昌卒すく。○八月十七日大風おおふう而再度じふた小屋こやを覆おおす。奉まつ不深川ふふか水床すいとう

上述じょうじゆある大船承代橋じゆだいばしを損そん失うしな。○八月廿七日土佐左京少進光芳卒すく。名宗殖むねむし。姓林じん。淡葉たんば櫻さくら院いん中ちゆう称名院けいめいん。葬くわう於水床すいとう

○九月式朱帳通用始はじ。○十一月朔日數九時以上野所車坊失火
○此冬初度はじと以いふ人日善里舟擊ふねう松まつ碑ひを建た。入江貞文じんぶんを撰くわん毛

○再校場補江戸砂子梓乃沾涼アラシ又男恒足軒門人

冬涉校訂次

安永二年癸巳 二月 国

二月十五日儒師深見有隣卒 林彰善橘又左更玄岱の三男 ○三月首より平島

上野護国院より葬次

長命寺弁才天閻帳 ○二月より圓向院境内一言観音閻帳 ○同月晦度申堂

青面金剛閻帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より洲寄弁才天閻帳

○同月より先稿移入神閻帳 ○四月午の日築地小田原町浪除稻荷祭

町より出一練船ほかに生假体む ○六月末より疫病行乞人々死を

三月より七月まで凡十九万人

所救キハとして朝鮮人參せむる ○七月よりお盆に於て

疫死より大方中人以下あり

上の宮弁才天閻帳江戸より糸崎多一

○五月醫學館再建諸醫師より年

寄附報乃 ○五月十九日儒師坪井青城卒 サトウキイチ 又名敏求

凌雲正覺ちふ葬次

○葛西東湖寺日限觀世音閻帳 アマツテハタケシ 半塗

○七月朔日より湯島社地にて攝州

寺日限觀世音閻帳 アマツテハタケシ 半塗

○八月朔日神田西林社仮殿にて祭礼の式執乃

高年祭の年をもすか考ひ矣

育廿六日江戸祭の時

○冬嚴寒川の氷厚く通航自由

あらびきゆうて然物の價を貴くアマツりこれよりて正月門飾の松柏高ふる

と

名ふりゆふあ玉川も氷閉て通航絶一月も有り由後厄莫ふり

○十二月朔日神田西林社仮殿にて祭礼の式執乃

高年祭の年をもすか考ひ矣

産子の町くねくねもちふだをぐる在今日假殿とて是式のもの

を以安永六年延假殿とて執乃ひ日亥亥年九月奉考りあり

○作り方の烟よ筋

を以安永六年延假殿とて執乃ひ日亥亥年九月奉考りあり

○安永の始の以綿の実を

る薺麦を食へて死うといふ

○墓所一覽小畠人宋紫石今も残り本が歌中植本も葬

呼一般ふうてそが更小賣れどき

○由記せり他小最島扁額縮本又安永七年戊戌五月

宋紫石古十三才と乳雀を画する額を載りよつて植本も死り乃く小石碑ありて忌日

造りトビ又同ち中宗恩ち其家の墓碑あれどもともふ詳あらず

同 三年甲午

正月廿日狩野洞庭舟信卒 ○二月八日より川口善光も狩野洞庭舟信

○三月首下桂町より出火大風を教所敷燒すと云 ○三月十四日中村報

千年忌 ○三月十八日建部涼俊卒 カミバキヨム 五十六才牛馬弘福寺より葬を

画并能作を呂氏に寒葉齊と号す

○同日より魚藍親世膏開帳○四月朔日より六月廿一日迄大師河原平間
寺弘法大師中密稿石向院にて開帳○四月四日より六月八日迄本所
表町奉多の祖師開帳○四月八日より五月十八日至木下川茶師如来開帳
○永代寺内生六親世善腰絆佛開帳○四月十八日より六月八日迄淺茅ち
親世善開帳○西門行舟對西所にて信昌植郡白鳥山康樂寺圓光大師
御新祝壽上人本像開帳○二本枝廣岳院にて仙臺往生ち寔牛併
度圓光大師開帳○六阿絲院末本親世善開帳昌林也○四三番西が原
毎量ち親世善開帳○四月十八日より六月八日迄淺茅寺肉田膏院
雨宝童子松寿院かく弁才天獲慈像開帳○淺茅池の妙有ち弁
才天開帳○五月十六日より寇戸天滿宮開帳ひ○六月六日大雷世七ヶ所小
落す○六月廿三日太風雨家屋を損一樹木を倒す

○小石川傳通院山内福聚院大黒天豆のひより江戸仲構中を縫んで
甲子の年諸今年より始る○七月朔日より雙國ち奉る如烹海親世膏
開帳○同日より小石川大塚久慈ち親世善開帳○七月十五日古筆了延卒
十六日○八月十五市谷八幡宮素礼神輿を渡し一牛一練物お出る○八月津タリ
猪元祖霧契新内死辛○九月朔日より市谷八幡宮内菜の木瑞翁開
帳○九月医学敍謹坐成詮毛○九月廿日生土山聖天宮素礼神輿を渡
し産子の町より出一練物を出し後休む○九月廿一日小石川白山權觀
素礼神輿を渡し一產子町より出一牛一練物を出し○九月深川清殘座止
○大川橋始く掛る左妻十月十七日渡り始り○十月廿二日儒師鶴孟一卒称左勝
盆子長應○画人鳥山石燕豊房白山彦とて繪本二巻を以て之渡フキボカ
もか舞はシ○石燕の周信の門人石燕の周信の門人シの彩色櫻を工文せしへ此本を始とほほ安乃貞翁の話石燕の周信の門人あり板刻の画本也

○又此時代橋の珉江といふ繪師りとく繪翁師あり。橋の粉色を工
夫し職人部類とりて繪車を以てす。外俳諧の点式など製して行き
しがやがて廢れ。○投扇の戯竹生半枝是を表す。

安永四年乙未

十一月閏

三月十七日より回向院を京清水田養院^{景清守}本尊 千手觀世音毘沙門天
移軍地苑^子開帳 ○四月九日分供谷長谷寺まで京音羽山清水寺
萬院千手觀世音^{思源の天地}移^子開帳 ○大井来福寺櫻樹を栽種く
八幡宮開帳 ○四月芝切通一時の縁再興 ○鬼戸聖廟小樓門
建^{屋上小} ○大川中洲築立地^{中洲}家屋連續町名を三股富永町と号
一川辺小草簍^{ナタ}の茶店を^{ナタ}アリ。又月納涼殊々繁く法事盡

夜小喧

六如菴詩鈔 中津泛舟

繁華休^レ說湧金門行樂此中難具論烟暖四時花世界月清萬頃
水乾坤垂楊岸岸樓臺出遊舫人人歌笑喧輸却杭州緣底事恨^ハ
無^ハ蘿白關詞源

中津納涼同伊藤士善

日落江天闇暑收趁涼輕舸向中洲燈棚夾岸花相映蝶蝶卧波
橋欲浮鳳管數聲風嫋嫋星河一帶水悠悠銀鑼倒盡人難醉白
紵^ハ携歸滿袂秋

中津漫興

十里清湖鏡裡天繁華惱客動留連鶯鶯沙外芙蓉雨楊柳橋頭
翡翠烟^ハ見^ル黃金臈買笑誰知白髮暗催年笙歌眼底鎮長滿自
是來舟非去船

○四月十九日光明王院にて豫含权幸寺親世音同岩殿寺親世音同
室戒も親世音豫含サヒ番の内一番忙翁^{イシ}開帳 ○七月十九日回向院^ミ
ス伊豆二島長岡ち富士山本地院^ス院如東開帳 ○七月十九日回向院^ミ
てわ乃名根塔峯阿弥陀寺強^{カサガ}誓上人本地法國光貞佛開帳

○七月より市谷柳町方住院親世考閑帳○八月十三日より晦日まで深川八幡宮閑帳○同廿二日より護國ち山内まで移又二十に番親世音不移閑帳○八月茅場町某ゆ境内にてねみ萩野法界も朝日山本閑帳○九月朔日より音羽町九丁目田中八幡宮閑帳○同日より世日と飯田町世縫縞花天満宮閑帳○九月十九日牛込赤城明神閑廟○投壺の技竹原と云ふ大内懸耳の門人田江南とりる人投壺のれを研尋一を法と作ふ投壺指揮投壺矢勢圓解木棒打せ○紀伊玉孫文丸山が実文右近築地飯田町住へ終は善一なるが能活を好み龜山と号ひ後蘿蔓一明西とりふ今年六十條才ふと歿る是とて絶う○十一月廿二日儒師松崎觀海卒名雅時林太翁
麻布至多小菴○蘆荔より來り一鼈瑞ヤマアラシといふ獄神田仲底町田村元雄家主立一づ怪談漫まち焼肉とて見世物と云甚の大サ子と脊骨板百本ばかり忽る時ハ此骨逆立と忍ろ一き等とあひ

安永五年丙申

正月五日儒師村士一秋卒名宗章号玉水林初庵
甲子猶近太田す小菴○正月廿八日より柳島法性寺妙見宮閑帳○二月風邪流行○三月末より秋の始を以て麻疹流行人多く死す○三月廿三日物産家田村元雄卒名元臺凌華
高純す小菴○四月廿八日詩人太内熊耳卒八十名承裕称忠吉支下谷廣徳す
妻以男せ墓室とりふ○五月六日より八月八日迄田向院主伊勢白子親考子安親世考閑帳○五月朔日より矢口新田の御幸奉地十一面親世考閑帳○同日より永代ち花束八幡宮閑帳○七月廿九日萩生道齊卒号金谷祖孫の男より○八月九日儒師宇佐美瀬水卒名惠字子迪称惠助四谷
事子戒乃ち小菴○柳橋若叶盈と云前翁の妻一產一產小ニ女を生ハ名を梅ねまといふまゝの様の綴語ありといふも○品川の辺を石地藏經を讀む声喚あるとて傍人笑ふ乃一地蔵寺の

為覆を放してつるよ後の方より蜂の巣ありて多くの蟻の声讀經の様ようええるま。○九月十二日東叡山瑞璣殿昇諸堂御修復てうほく開始はじ。

○十月廿七日書家伊藤益道卒いとう よしのう名子野林若義ねののき らくよし坂本農園主葬さかもと ののいんしゆ。○十二月十日夜二更のころ新座那東明ち吹上親世考本堂焼亡本堂火中ふ理れ。○十二月廿三百儒師伊東渤海卒ひがい がい名晃めぐら淺草あさくさ万度まんど妻め。

安永六年丁酉

西月廿一日曉青山御寺大工町焼○淺草報恩ち親世考上人お物の什室を
修むせしむ。○三月廿日より六月朔日まで淺草親世考并境内神仏熱あつ開
爐かまきあり開基より千百年みちゆゑと云い。○般人町百菴の草記より淺草妙秀院の
開爐ありと云い。○境内又山是時阿先生住むるを爲ひ燒石中谷と云今ハ中田といふ

石爐ありて男ひのうかみも今ハあつ田の里すと云い。百菴

○三月廿五日より湯寄乙は宮本社建立成社は村開爐○三月同白妙長
谷ち境内親世考開爐○淺草唯念寺称念ち漏泄澄泉寺まで七日ツ
下野高田天辨あらわ一光之寺佛善爐○四月廿日より圓向院岡山護念公傳中
千杵佛ちん阿絲院如東境内善光寺方天一言親世考開爐○同日より青山
善光寺一光之寺阿絲院如東開爐○深谷長谷ち二丈六尺親世考後龕の像立
外古佛靈室開爐○四月廿日下谷ち町蓮城ち祖師日親上人開爐○橋場
不動院不動尊良開爐○四月八日より龜戸社内花園明神開爐○中野法
仙ち不動尊密爐○芝金松正傳ちふく牛込寺町久成る前ち祖師開爐
○下谷五条天神天満宮開爐○龜戸山田福ちふく牛羽湯殿山黄金雲玄良
坊佐久間ちひだり如東開爐○続町平河天祚内そ小津浅草の神虛空院

卉展帳○六月十九本丸山奥若寺祖師開帳○六月十一日儒師福垣長草平号白嶽
称名左衛門山○夏より伊豆大島燒始ら南海火燃出る足川沖を夜く火光天めほうちふき
映すセリ○八月十五日ノ圓向院にて及栗珠義仲あいづきよしのぶ木名義仲きのよしのぶ守本
院あいそ日休院如東芭蕉翁像開帳○八月廿五日書家弓山小慎平やまのせんぺい名尚賢称平助
○此秋魚群さかなぐんかね乃小田原の海中大魚束おさわのまつは五十石横八九石脊中又坊

の類似て名をメウガサソと/or/う大船おおふねを覆おおふねてとりて之に漁人
船ふね也海うみ也○十月同本不動尊肉を武昌寺摩那谷保天
祐開帳別案安樂也○十月甲戌身延山七面宮より虫虫系諸の看怪家人立たて
御戸みどりもむろと追おもむろ者多く九死一生の辟よけてぬ府ふセモもむろとぞ

安永七年戊戌 七月間

二月朔日より淺茅寺法ふうじちふく佐渡玉燭原本寺祖師開帳○二月十二日

俄より大風起り本石町より出火靈巖島深川延延燒○小作る町子代因
縞着并無靈室故あゆて解わかせむ○淺野家の義士姫翁安^{よし}勝よしづね後
家ご孫ごのひこ計そもせまま内うち 薙髮なげして海と号いて庵戸村の庵室あんしつと居
すす老後泉岳いずみがくの門弟もんていと義士の善提よしと吊つるひ居ゐすす今
年二月廿五日九十才ふく經れり○三月三日儒師南官太漱平なんくわん名岳
牛島弘高うしまこうこうち小草こくさ也○三月廿日より櫻町平川天滿宮開帳○鳥森福翁とりもりふくおう及
林朴いけばな別當開帳○三月上野淺水堂親世翁おやせい本堂造立并開帳
足元あし也○四月朔日より牛込田福うしこだいふくちゑと京奉滿寺祖師開帳
○四月より蘆園寺主甲路大聖院不動尊ぶどういん新傳しんぜん開帳
武田信去むだにしゆく像

○六月朔日より御靈苑八幡宮より跋乃富士裾野芳我八幡宮名我兄弟の像
荒人神玉波明神荒里主開帳火防開

○同日より閏七月十七日巡回向院より信州善光寺御施水東開帳火防開
而して諸人羣を召し晚七時以降牌の先に桃灯多きとりつれて声小念佛を唱へて余請ひりの多
く平賀橋渓鳥亭焉らが水よりとて更をあへゆき萬年の舟ふる宇の名号をうかべて見え
せりの如く利をねりとりひ又懿江源ニ年古木を平とりての細工にて造りご美室と
号へゆくねあをえとて松井みどり殿又佛りうちこそせりの恩庇とりつゝこそりのかといづも
石舟多く火防開○六月朔日より御紅葉苑南於大佛劫造所生世大恩天開帳

○六月十六日俳人小栗百万卒西半郎中○六月廿二日より多田茶師内小
了武五十条村生光ちに親世考吉智法印像開扉○了彌如來あらく
常唐國康島郡子生神宮おおだえん天開帳○七月朔日より芝巻宮
社地より千住勝專寺誓光明神開帳○牛込七軒町多門院ニ身毘沙
門天寶帳○三田寺町慈服くわいふく引山親世考中乃昭運天寶開帳

○七月朔日より湯島社地より武州埼玉郡野島地藏堂開帳淨山堂

○七月四日書家山岸榮海卒名譽光林毛筆○七月八日小刻下水花巖

寺落成如來冥福車不法思天寶

○七月十六日より淺草寺中霧今院妙見宮本堂建立入佛而開扉

慈承開扉○七月廿八日より浅草寺中霧今院妙見宮本堂建立入佛而開扉

感得孫陀如來聖應寺主荊蓋新親子地藏堂冥福化天寶

院新述如來開帳○八月廿五日鬼戸天滿宮祭禮作事列古例の如く又

産子町生株物小出て被ひ大方火防中地

安永八年己亥

正月十四日夜青山無野權現別當淨性院有火○二月板珠持冠燒内

ゆく所旅所は本地観世音開帳○川崎平間寺厄除弘法大師奉
堂修復成施小舟用麻○本山聖天宮西の簾小舟の池あり池中より投げ築
不投返といひ傳一ノ年火災小覆う池も埋と石像も土中不埋れ四十年未初る人ニ
今年の末ト總合八日市中百姓平山忠太郎との事に付不あう所を借りて酒樓
と販賣池を改め二舟小橋を架して三橋亭と号す是處の女小機を械らして客
ふつきけることこの時うの石像を移しとて置く舟をタマリと山上へ移して今左
アキラ婆の像也○四月朔日二日大小寒一日大雹降○四月八日
淡葉本法寺を新曾妙顯ち祖師歎如來開帳○四日より圓向院
まで伊勢朝熊金剛徳ち虛空院菩薩開帳○仰上最教寺蒙
古退治旗曼荼羅を拜せしむ○下谷社大摩利支天開帳

○四月八日より淡葉極寺_{西光院}然野寺地孫絕妙集<sub>圓山觀智國師
供持年号</sub>開帳

○四月十九日迄百日之内河内鶴来宮岩屋大天開帳江戸奈良宿

○四月十九日迄百日之内河内信乃水内郡石堂村萱雲寂照房作地施井<sub>別名開帳
栗ち</sub>

- 芭岩山内まで淡河山虛空院菩薩中腹鬼神堂地菩薩開帳別當延令ち
- 五月十日より九月十五日止前年未了勅進不そ南於東寺二月堂観世音菩薩開帳
- 六月八日より茅野町某師内まで武州下野座村東門寺吹上観世音開帳
- 湯西河神社多摩郡谷吉田領新里徳性寺某師如來を勅進不
帳○八月より深川八幡宮幸地愛深明王開帳○小石川毎量院不小野
道樹植の聲せら程崩る_{小野向水方下邊}○薩摩侯品川の前郷_{琉球庵の}
筆を始て極らる者今未を珍賞す_{世不並年}○九月二日俳人梅鄰菴五連平
芋云々小石川_{一多喜家}○九月より十二月迄小綱町より墓を齋つ町_{源の}此をアヌ橋と
壊ちばまの地を埋_もる○九月十五日牛津前多加利神樂を演_もテ童子

町より出で移り地を牛込に改め候中絶也○去年暮より伊豆大
野焼出夜毎西南門勤してはた迄も寄附れり○十月朔日夜より
二日迄重雲の如く降る大渦國様高燒アレグモ灰にテ止む際一と
九世目今年堂宇を修理せし小本堂の棟上より今之帝釈天の板本
りふ○十月廿三日他人筆承た簾平簾上之山下○葛西柴又村難煙る
故の内今年堂宇を修理せし小本堂の棟上より今之帝釈天の板本
多シテこれを手て是處ちかづて若々失ひ一幸もその日庚申小滿
○今年忌日書家鳥石葛底家承ふ於て卒八十文字君岳号白虹
○十二月十八日平賀楨溪卒名國倫於深内号楨木山人携持總象も小尊
一去小安永九年二月とも云

安永九年庚子

正月八日書家後山敷簾卒名秀盈後山流の祖也○二月十五日書家山本昌
信卒林菊治三四○三月乃基芳千七十年供養六阿弥院如來小御靈牌

圓向○二月朔日より湯島社地にて上野世良田感應山燃ねむ十一面
觀世音開帳○麻布若福の冠綱聖徳太子開帳觀音上人草八字居
号せ詳せしむ○千駄谷八幡宮神功皇后妻日限神開帳○三月朔日
市谷柳町光徳院手を觀世音開帳○同日ヒリ池の妙善の祖師開帳
○三月十五日ヒリ青山善光も手を攝津姫波姫江光善の佛開帳和光也
○三月十六日永代も手を葛飾郡吉川延命の地慈空開帳○四月朔日より
多西福の金量壽公甚什物開帳○四月朔日より極樂水光宗も元末某師
開帳○四月十日ヒリ龜有村祥雲も聖觀世音菩薩川寺町慈空もみく
開帳○日向不動の開帳○淺草天王橋西の持塔也成正生新開帳○四月十六日より
羅漢も三市堂建立八月の既成熟秋又板東而觀音寺安宅供養あり及俗事

○四月房州南浦異國船漂着南系船者廿八名七十八人多といふ
 ○五月高田宝翁もふ石を携て富士山を攀今月成能す○或書より月
 国運里かるとぞ○奇十に日書家篠田定考卒号西浦
 ○六月廿四日儒師松宮親山卒名俊仍称主於大源光深院也○六月三日大雷雨
 女六日より江戸近在利根川荒川戸田川洪水村々人家を流し承代橋弊
 橋落る助船を以て難を救せらる七月より米價貴一○七月朔日より田向
 院も丹後天橋立成ねむ聖親世も対王丸為代地元を閑居○九月十
 五日儒師林東溟卒名義卿牛角○十月十五日山岡町阿君京於小卒名俊明
在舊今年享十九才より卒去あり
 ○武藏志料写卒成昭阿君の著輯
辞世百とせあつても何のうつえ思へ度の度きもなし○武藏志料写卒成昭阿君の著輯
作成一書文中ふくさくはその名の故事人物お各部をかねて但一全集の物とひそえ度又義
親之作の紫一車の後悔とあくまでも紫のもうこと影せしゆあり写すてせふ稀あり

此年間紀事

堀之内妙法も祖師巡回東洋人群集也○安永始の以王子勧迎谷中辺西至
 写即毎され不巡りを定む○江戸小二十五箇所田光大师巡回祈福を宣ひ墨編
記下○安永十年俳人提摩弘撰る種もひととく句集小載ふの是時代の草物高物
 同解左小畠紀也○菓子屋下谷慶小路今は岸町今木越後内宮町幸町
 餅浅葉並木○輕燒松雲軒○蕎麥そばき○蕎麥切そばき○豆正直形正直狀告不約瓶濱川油煙鏡
 ト名車坂坂田町○蕎麥蕎麥松雲軒坂田町○大佛
 船切船町○揚枝茶釜サトウ○五倍子酒中花淺葉煙肉坂田町○料理茶屋深川市
 深川八幡宮二軒茶屋佐野町○あづやく林田佐野木所山家○大楊地樂庵大井町○田樂甲子座○船
 浅葉大坂や芝に東日野坂田町○あづやく大楊地樂庵大井町○料理茶屋深川市
 ○生簀鯉彦鯉葛西太郎○鼓の焼かの町○隅田川諸山並木並木町○鼓鼓伊四子
 内所おに玉盤内所○鮒中ちー鮒中○蕎麥切豆腐木挽○あへ雪うさ茶田舎町○船
 蕁媛アラシ町翁吉原吉○淡葉腰淡葉町○いくよ母あは姓外姓外のすこだり
 あく花もの名不夠の名所をも記せり○わ樓取谷風櫻風櫻助小野川喜

正治年表卷之二

三

三月新込蘿雲右歩へ行る 安永の以ひて川津川永代 ○狂哥師 平移東化
蜀山人 名柄岡持唐衣櫛洲 ○軍談師馬谷 流し船石井魯石 行る
○浮世繪師 名居清長 秋を櫻於木葉代の以よりは才ふ巧ふ成
小松云
文政四年十月
小石川
慈照院
高川裏町 金櫻 寸川豊春 一毫あらる ○能人松嶽菴 醉四時游観録
といふあ面接をあそびに戸花磨是小野うり ○浅茅も境内石地義子
因果北義 とひ 流行之後奥山二途川曉像行の若多一 ○先繪荷境内茶
店の婆く油揚せねくもいと喰ふ時物出で食ふ皆人もを見た ○婦女の
饗き始む ○若入温石始む ○裸人形腰折れといふの造り始む
○小石川傍通院大原をすりぬけ門あの表町角小屋ひな祭を拂とりの田樂菜飯の
店を出でて乃是この熱き膳生質強烈をあせり弱きを助あ頗る使者のりのあり一 是年よ
是御坐やうの美術として化踊をみて山主神田の爲めに奉られよも出で踊る或は女のからうせら
う小原女をかく巫女のかみをみてとう或は諸産蒲中の娘ちの名ふ強てされりもと金指ハ
おそれともうが文化のまゝに神田あれの時幸体才をもつてのよふをうて踊りてそのれも看
方をほせ七十金えりく修り 南畠先生文化元甲子秋お傍へ趣されぬ高船の清人程赤城より

天明元年辛丑 四月十三日改元 五月閏

正月八日新林木町和國餅の店より火あ芝居の外新櫻靈巖敷席おひだくま 小
禹儀小南畠先生の贅あり もまくりと作樂の事は名はるに御花火前
○安永中鳥山檢校遊里み遊遊女漱川を身立こせん 巨万の金銀を費せり
は檢校諸人小金銀を貸してかる利ど貪り ○山主神の奉札の時花万度せりづきゆる
けぬるつひ小眾料小遣せりとより ○山主神の奉札の時花万度と号ひ ○安永中越後の者と云せといふ
と云止むれふ地東を除てく東方度と号ひ ○大女のかねふくせをねふゆり

天明元年辛丑 四月十三日改元 五月閏

正月八日新林木町和國餅の店より火あ芝居の外新櫻靈巖敷席おひだくま 小
禹儀小南畠先生の贅あり もまくりと作樂の事は名はるに御花火前
○二月朔日より凌草妙音ちを簾金名誠谷長勝ち祖師并脇
より圓向院よて下總小金 善化宗 一月寺新込如東不動堂開帳 天八角三義 ある
ある 喜国 三月十五日十三日を多田を一内とて信州善光ち圓少如東沖京文内
少すれ ○四月十四日を沼田延命ちとて 信州善光ち圓少如東沖京文内
舞 ○三月十日凌草三社権現祭礼久々絶す 今年作寒素新産子の

町々分付^{ハシメテ}練物を出^ス_{ミテ}後^{アフタ}中^{シテ}終^ス○四月八日より圓向院^モ山城嵯峨^{カワラ}院^モ跡^モ施^ス○
宗光大師閑燃○瀬^ミま幸法^{ムカヒ}もあそ^ト總國卒^{スル}幸^{ムカヒ}寺^モ祖師閑燃○茅場町
茶師内^{シテ}和^ス太峯^{タケシマ}天^{スル}阿^サ才^{タツ}火^ノ大閑燃○吉川茶師^{カミ}祖^{シテ}士^ジ跡^モ院^モ
○數^{カウ}擣^ク案^{スル}家^{ハシメテ}甲斐國郡^{カミ}内^{シテ}小^シ野^ノ尼^ニ村^モ西方^モ十一面觀世音^{カミ}閑燃
○同上不動多燒内^{シテ}武藏熟社^{ムツツク}住吉和^{スル}方^ノ二^ニ補^ス閑燃^{カミ}○_{大宮司}

○六月五日瀬^ミま第六天衆^ス礼^{スル}事^ハ一^ハ練物^ス○六月十四日儒師^{ブリ}井上^{カミ}榮^{カミ}
_{名速称然方事^ハ}○六月十八日四谷天王^{ミタマ}福^{スル}繫^ス索^ス禮^{スル}事^ハ一^ハ練物^ス
○秋葉東洪水^{カミ}江戸橋^{カミ}換^ク○七月九日より圓向院^モ奥州外濱百洋^{カミ}
ち岩^{カミ}山^{カミ}二^社奉^{スル}地^ハ除^ス燒^ス○此^處に假宅^{スル}○十月十二日日蓮^{カミ}
泉^{カミ}ち^モ武^{カミ}忍^ス八^日生^ス卒^ス事^ハ祖師^{カミ}冥燃○四^ツ谷^{カミ}南^{カミ}守^{スル}所^ハ成^ス院^{カミ}塙^{カミ}踏^ス觀^ス
世音^{カミ}閑燃○東^{カミ}叡^{スル}圓^{カミ}院^{カミ}常念^{スル}念佛堂^{カミ}五^万日圓向○下^{カミ}谷^{カミ}極^ス大^シ事^ハ中^シ

山法花經^{カミ}中^シ祖師閑燃○七月九日^{カミ}湯^{カミ}島^{カミ}社^{カミ}地^ハと^シ小野^{カミ}社^{カミ}内^{シテ}安^ス立^ス
瀬^ミ宮^{カミ}閑燃○八月より瀬^ミま幸^{スル}荒^{スル}不^ト勤^ス苦^ス閑帳○九月晦日^{カミ}子^{カミ}刻^ス告^ス原^ス
見^ス町^{カミ}一本^ハ足^スより出^ス火^ノ町^{カミ}の除^ス燒^ス○此^處に假宅^{スル}○十月十二日日蓮^{カミ}
上人五百^{カミ}年忌法^{カミ}花^{カミ}宗^{カミ}の院^{カミ}法^{カミ}筵^{カミ}設^{カミ}く○十月十四日日蓮長泉院^{カミ}
基^{カミ}德^{カミ}門^{カミ}律^{カミ}師^{カミ}寂^{カミ}_{諱^{スル}普^{スル}寂^{カミ}号^{カミ}及^ス先^{カミ}}○十月廿日より十一月八日^{カミ}迎^ス瀬^ミま幸^{スル}觀^ス世音^{カミ}
閑燃○隅田川西岸^{カミ}一覽^{スル}二^卷板^{カミ}行^ス成^ス○軸^{カミ}物^{カミ}を利^{カシ}する^スヨ^リ生^ス新^ス少^ス一^ハ雀^{カミ}岡^{カミ}蓋^ス冰^{カミ}の草^{カミ}
下^{カミ}谷^{カミ}金^{カミ}枝^{カミ}木^{カミ}一^本一^本其^{カミ}處^ハの破^スあ^リる^スの草^{カミ}水^{カミ}ハ翠^{カミ}ね秋^{カミ}立^ス一^本
文政^{カミ}の未^{カミ}も尚^ス存^ス在^スよ^リと^ス○_ちれ^ハは^シ唐^{カミ}茶^{カミ}松^{カミ}院^{カミ}の^ハ中^シ送^ス者^{カミ}よ^リて^ス芳^{カミ}蜜^{カミ}を^ス割^ス一^杯が^ス於^{カミ}下^{カミ}れ^ス
深^{スル}弓^{カミ}丁^{カミ}○三月十日^{カミ}より瀬^ミま幸^{スル}念佛堂^{カミ}五^方瀬^ミ谷^{カミ}波^{カミ}華^{カミ}嚴^{カミ}寺^{カミ}十一面觀^{スル}世音^{カミ}
塔林古墓

天明二年壬寅

三月十日より永代^{スル}老^シ躰^{カミ}弱^シ是^ハ八幡宮^{カミ}奉^{スル}地^ハ若^シ除^スひ立^ス新^ス約^ス只^シ警^ス觀^{スル}世音^{カミ}
閑燃○隅田川西岸^{カミ}一覽^{スル}二^卷板^{カミ}行^ス成^ス○軸^{カミ}物^{カミ}を利^{カシ}する^スヨ^リ生^ス新^ス少^ス一^ハ雀^{カミ}岡^{カミ}蓋^ス冰^{カミ}の草^{カミ}
下^{カミ}谷^{カミ}金^{カミ}枝^{カミ}木^{カミ}一^本一^本其^{カミ}處^ハの破^スあ^リる^スの草^{カミ}水^{カミ}ハ翠^{カミ}ね秋^{カミ}立^ス一^本
文政^{カミ}の未^{カミ}も尚^ス存^ス在^スよ^リと^ス○_ちれ^ハは^シ唐^{カミ}茶^{カミ}松^{カミ}院^{カミ}の^ハ中^シ送^ス者^{カミ}よ^リて^ス芳^{カミ}蜜^{カミ}を^ス割^ス一^杯が^ス於^{カミ}下^{カミ}れ^ス
深^{スル}弓^{カミ}丁^{カミ}○三月十日^{カミ}より瀬^ミま幸^{スル}念佛堂^{カミ}五^方瀬^ミ谷^{カミ}波^{カミ}華^{カミ}嚴^{カミ}寺^{カミ}十一面觀^{スル}世音^{カミ}
塔林古墓

閑帳○同日より圓向院にて奥州金花山弁才天閑帳○芸合金枝の傳ち先中山
智泉院鬼子母神閑帳○茅場町茶師内にて小洋謹高政神(五帳)○三月廿二日
金剛工尾傳直政卒林綱左衛門○三月廿九日儒師片山兼山卒名世蕃林冬翁
小葬○四月三日儒師後藤芝山卒六十才称跡無傳○五月四日細井九臯卒名知文
一厚次雄及人廣淳の男也○六月三日戯作若伊庭可矣卒に谷理性也○六月天文
牛込茅店より浅茅(移る牛込の旁の神田佐久方)○七月朔日より圓向院
至安牛込茅店より浅茅(移る牛込の旁の神田佐久方)○七月十五日より下谷法華院内より
より武州比企郡三保谷村養生院永年親世吉弘法大师他及准本号開帳
○七月十四日夜九時十音の大震鳴人戸外(此るこのる少一の地震ハ算(さと)
此甚お及太山の辺(この外)より屋上(よし)石を落
山るて落(おち)る(又小田東へ)迄(まで)ま(と)そ○七月十五日より下谷法華院内より
上及び林光照(延祐四年利根川より阿弥陀如来閑帳)○十月世日俳人(子)物語
義率号有安房浅茅○十一月廿九日俳人谷に樓川卒辛(かね)ち中○今年少(すこ)
小葬故(おも)れ小葬也

尚を切立(ひきだて)西玉世三所写親世吉堂建立御中勅化を慕りて是を嘗む文政甲子年(1824)八月
破壊小及ひて今後(今後)不(再)建(たて)ハ
文明二年癸卯

正月廿六日深花の狂歌師芝薙花(江戸)小卒卒の聲清(きよ)清(きよ)と云○二月二日俳人
二世治(木)涼平八十才(木)清(きよ)中○二月二日大地震○二月より吉妻森吉妻權
昌泉院小葬昌泉院小葬也○二月十四日より下谷正法
現閑帳○二月廿日より毎(まい)日(日)豈(く)門院正法親世吉閑帳
○二月廿八日俳人(ひに)平(ひに)川(川)小葬三田原林也○二月十四日より下谷正法
院福翁并(ひに)平(ひに)川(川)小葬小葬也○二月二日大地震○二月より吉妻森吉妻權
坊(ぼう)平(ひに)地觀世音(みやこ)閑帳○青山善光(よし)弥陀如來閑帳○四十五日より浅茅松雲(まつもと)歎(くわん)院
如來閑帳○三月十九日より圓向院(まつもと)にて篠倉永谷貞昌院天滿宮法財
寺上人遺物(ゆいぶつ)を拝(くわん)せしむ○三月十八日より六月八日延淺茅寺親世音閑
帳寛延(1804)年より三年(1806)年(1807)年目(中)中(中)靈佛(りゆうぶつ)多羅(たら)閑帳○四日より狗形堂(いぬかたちどう)にて總玉
小葬奉(まつ)仁玉門被(ひ)損修(そんしゆ)復(ふく)あり

東三井ち地慈井開帳○三月より淺茅奉法ちを綴る岩本実わる
祖師开帳○三月廿三日南尾川大火○四廿五日靈巖島火事○四月
八日深川辺大火○四十日浅茅寺の落成○四月朔日より陽島田浦
寺十面觀世音立大寺開帳○四月より浅茅ちの御持奉塔十二面觀
世音開帳○同日より下谷五條天神天滿宮開帳○四月八日分芝變宮燈現
開帳○四月より下谷五條天神天滿宮開帳○四月八日分芝變宮燈現
境内生て下谷山米倉山妙十面觀世音立大寺開帳○六月十日より
湯島社内生て小日向若荷谷照應る地慈井聖種ち不動尊開
帳○喜より霖雨晴もハ拂之○六月十六日より大雨降續十七日別て
大雨か怪浅草小石川辺牛水太川橋竹橋築築る小日向太洗堰石垣崩
き神田上水切る○信州浅草山火坑又み焼にテみて七月六日夕七ツ
至快晴と成る

す時よりあわの方鳴動一翌七日移志一天暗く夜の如く六日の
夜より冥東筋毛灰を降る夜ノ駆一牛木枝穂電の如く八日みど
至快晴と成る

浅草山焼出セ一ハ善のひより晴り常ふ活一りうべ別て漁く焼出一月廿九日の頃より
望月宿の邊より小烟立雲の如く空一面小霞ひ炎ハ稻光の極あえて思一クレ一
七月廿日より毎日雷の如く山鳴り次第小強く六日ノ夕方より青色の灰溶灰中より望七
日の船大如傳聞るる強く登立より樹木せなより早安佐近の鉛石の如き小石降りて玉當
行ひ七時より灰降出一暫時闇灰の如く人報も見え分ら更内にて火を燈一さく、
用ひあれり本像をいくつも見てひふがり往未せり拂之ニ時計りて空暗きと見にが
又陽方の如くふ冥一火の玉瓶より暫らくて小石降りるる強くテ煙子をうき灰寫るる
こもれ雷強く拂り安シ中ハニケ而一ある空に向ひて放光を放ち太鼓を打て雷除をあひ八日
終に火害根のめくえより少一晴後未も見えし者是辺みて灰八寸位積多寄辺一ノに不す
留是辺は所吉井辺かと一坪の不量り一ふ二石あり陽方を以て灰ひた石降神も多一松井田
て三三計り經井深皆機追引板車の邊を二つへ村の左隣り人家と貴一左灰ふ人少く一
家と捨て退き遠くのれて金を全かせてもう一少井大釜の邊ハ燃燒多ど出で人多く一
禪所放光を追退く七日夕我妻辺の山より大蛇もゆく一又九日この時利根川の上吉妻川の
底人の死骸流生るる一縣一くま外の川く焼石お込水の熱湯の如く上明一園の底も二三日登
夜途方より信乃より上を無名辺追遠を追あれとも五年の右作過きにばの難あれて

死するもの九、方立は餘人とりよし田井宿ハ格の障、西風強くして退く宿。一月より
り昔天治元年七月より々かきのり、由中古記あるをり又元禄十六年十二月より
始山焼、れども八年の如くあらざりしる。
江戸にても硫黄の番、川水中川より移徳、通、伊豆の海辺を寒く濁る依て芦浦集
地炭焼の邊あらへ今ふも津浪起るとて太々騒動、一個島の男女まで残らば雜具を運び
く隠れ小舟、十九日あり。

○此頃錦麻價貴、○夏より秋迄霜、而冷、兼子とて惟子を送る日少。
大き浴衣綿入を、○七月十日より芭籠、密火肉、而本所五箇向收院延命大慈等
若る日多り、○九月十一日書家小林保壽卒、○葛西半田稻荷社修復勅化
大師他、冥燒、○七月晦日吉草八代弓泉卒、○関東奥川筋肌體、○八月十五日亥の
刻、月蝕、良夜の事もええ、○九月十九日書家小林保壽卒、辛未号中應、新葉
葬、○九月十九日林田明神祭礼の時、神主祝より神嘗を十番と十一番の方
を、○後をさす當年ノ始、是年二十六番のまゝ後、遷座は夜、○同日より鬼戸妙
法院、及びて有今年よりかの如く成る、○秋の角力冬ふ延て寒中ふ奥引をす、今年より始る
義山權現冥燒、○十月廿八日暁八時小僧る町奉手自よりお大風、而て

大僧る町通旅籠町田所町若岩川町極江町小網町幸丁目邊堀町、茅ヶ
町、赤本船町小田原町宝町、祇園町幸外教町焼亡、門牛剥然る。
○十月書家松山文號卒、名致和、秋深居、○十二月廿日己の刻、色減、草毛越、
虫火本船横綱、飛ひ堂川通御船、慈福通、除川六呂姫、幸松毛、靈巖寺
津名、然の御近焼、○十二月廿二日善六寺時榜上寺方丈焼失。
○秋の角力冬ふ延て寒中ふ奥引をす、今年より始る。

天明四年甲辰、正月四

正月二日夜青山麻布辺大火、夜四谷新宿焼亡、○舊冬廿七日により正月
三日以より、琴里坤の方ふ於る、○國正月廿三日晚八半時、神田銀河町二丁目
より大鶴町、而横町向望町、堅太工町新石町、丁目金師町焼亡。
○二月初午鳥森橋、新宿出、練物出、○二月より四月廿日迄中の々

如意庵寺聖德太子開帳○二月小川町三條稻荷神社開帳○三月十五日
より育音寺巡回而院ゆくお州園中最多を過る權觀開帳○葛西花文
村正堂寺鷺大明神開帳○二月廿日弘法大师九百五十年忌○川原平男
ち弘法大师開帳○獲多も護持院弘法大师遠忌付物開帳

○永代寺山城守治平寺院縣社本塚如意庵記世苦開帳○牛込東福寺
かく中山院花經寺本堂祖師他開帳○淡路本法寺もて佐波雜太
郡小瀬村宣寺祖師等賜○窓戸天満宮開帳○四月より子動谷鬼子
母祚開帳

化善院四月より深川靈雲院寺泉涌寺新近如意東肉村
佛舍利開帳○四月十日茶人清水玄昌卒ト谷竜泉○四月十六日具下刻
吉原水道尾寺出火廓中焼亡仮宅向ふ田向院寺城莫
善柔狗形馬糞町あり○四月廿日高
芙蓉寺卒辛亥墓利の上本多○諸國吼鐘附度行れ人立死也

○五月二日萩原宗固卒八十二名眞辰百花園と号ひ池光源の騎士あり鳥丸光榮との
恩怨平定門入事と和解せし次第年高りて谷草木横町五店一そ卒せり
ち不善也○六月奇古寒者伊勢貞生卒七十才号安高

上金義卒辛亥名號々称文平

○六月十六日儒師井

重保大富ち以華

上

金義卒

辛亥名號々称文平

○八月十六日國學者藤田津風卒辛亥名號々称文平

上

金義卒

辛亥名號々称文平

○九月十五日より十月十四日迄千住慈服寺老野島洋山寺地元寺開帳

○九月十八日後藤氏十三代延喜卒辛亥○十月より五年の間仙臺を角絶と繕

らる○十一月桐長桐芝居櫓を改し時馬場と云姓言セテ

是者之女翁の送風アリス○十一月東本願寺本堂再建棟上○十二月六日夜太白星歲

星を祀也○同月十一日月五星之祀也○十二月廿六日夜戌下刻八代河川

家より火為小風烈々太名小路新橋敷奇御橋町付延下辺八宿町

の邊尾張町より本校町芝居仙臺庚申蕃邸の辺北の京橋辺に鉄炮倒幕

地海軍南軍也。南小田原附近起義燒望廿七日申刻添助町辺にて大勝也。

太小名蒲郡町屋の延焼
○十二月廿九日儒師井子柔卒
号信承
俄至參之不棄 ○十二月廿八日夜赤坂秋川つるより如火麻布長坂辺まで燒る

天明五年乙巳

二月十九日より圓向院まで移禽称名も不動尊圓照 ○同日より圓向院まで豆州
八丈島為朝明神奉祀地慈菴圓照 ○三月より洲崎舟才又香林 ○四月八日
誕生鷦鷯の宮舟才又香林江戸より來諸多り ○淺茅妙高も老の江野猪
寺祖師昇戒 ○二月廿六日儒師清田君錦卒 卒七十六
齋右衛門号白周といふ英岳の画を摹ひ宝曆の代より
絵の図を画つりの巻が紙幅小枚ある御内に於てお葬し ○舟廿百小川巻山卒 内徳役
立吉才を後十才と彌彦の既小通一世小奇童といふ
情ひか十七才とて卒小石川光岳よりお葬次著焉 二十六
称大二郎跡延 ○同廿九日序甘松師石川秀範豈信卒 五十八
宿ゆる小葬次 ○同廿九日鷹學若太陽圓明卒
沙羅梶ち不 ○六月朔日より九月朔日迄圓向院まで移禽清涼も新迦如來圓帳
葬を

萬年裏家殊不甚一終京君集
江の車駕一ノリ一とぞ ○六月十五日より湯島社地にて武州野高地着
号冥燒 ○同日より七月廿四日江ノ車前一ノリ八幡宮旅而上刈鉢林後林寺
十一西觀世音圓照 お窓かひ福葉金を
辛亥才幡隨院中 ○及ち秋追早凶作 ○三股中側(築かず代坐未又あ
智白院不葬也) ○九月廿四日より深川靈雲院まで水戸祇園さん越禪師大財將
國橋向葉牛引持地川岩井八十にて南の方十三万餘あり本所一ノリより運井
近川渡の土を以葉うて之寛政元年八月にて元の如く川と成る
○九月東本祭り所堂再建成新延佛あり ○八月十四日加藤枝直翁卒 不
圓向院不葬也 ○九月十四日より深川靈雲院まで水戸祇園さん越禪師大財將
千石前の父す ○九月十八日より深川靈雲院まで水戸祇園さん越禪師大財將
東天祀永祚圓照圓帳并圓羽正物の令官玄德和村の五風日淺木生
○十月十九日儒師久保監寂卒 名仲通称二郎室の辛亥也
十太が谷瑞田ちお葬い

同 六年丙午 十月閏

正月元日丙午より午一刻を以て未一刻迄日蝕なる既闇夜の如一

小月そくいき

○正月廿二日辰九時陽島天神裏門あ牡丹長家より出火西小風烈々三組
町妻忌社神田の神門あ昇殿閣旅籠所辺内外神田より通明筋本町通
日中橋近東小田原町塙の町小網町櫻町草薙町赤坂芝居近辺大作る町
小作る町ち喰町濱町浦川（猪火熊井町相川町大島町辺八幡宮）を
居仲丁辺焼亡聖廿三日曉陰る聖堂神田の神ハ奉社計り殊る

○同廿三日風烈々午刻西久保大養ちつあより出火赤羽板倉町を焼失
ち院の光ひらか光院甚外焼失ひえより猪火て田町海老巻近焼る申中刻簷
幅三丈長十五町といふ○同廿四日夜神奈川宿三百軒の餘焼る○同廿七日
午刻奉行四ツ目をう出火金魚橋近焼る○壬夜平川所門外失火ひやう
○二月二日前荷田善満の女蒼生卒卒身寄學不ぞ一和あと
（うどあくまきよざわく）（よしめ）（ひはくまきくふくふく）○二月六日午刻正
（ひはくまきくふくふく）

小石川蓮華ちづ指谷所二丁目より出火乾風強く丸山辺ひら町幸之元町
西茶水春日町新焼歎立内波浪燒る○圓融院ふて上總ふか田村称念ち歎次
孫陀如東園焼○谷中延命院七面照神善焼○二月廿二日相羽若狭山崎動
（い女に日の吹拂震甚く）あ日百度計震ひと云○三月より護國寺親世房
開爐○三月十五日夜中雪降り櫻の花も残る○三月廿二日津端璃語元祖
お蔵焚若狭掃死（辛亥林店吉勝剝織と）霍氣とりへ○早春より四月の半迄
而あく日烈風ありて諸人火災の備のとて安きころか

○五月のじようあ勢く隔日の相うちしが七月十二日より別て大雨陣續れ
山水あふきて洪水と成り（十三日十四日より牛込小日向あ石切橋辺武家方船客傍追人）
乳丈も水あり小石川辺を拂ひそむ柳丁戸傍下家邊れに戸川
水勢をよみぐれ櫻の湯うちむか神田上水掛桶危く大勢の今支をみて防がしも候水桶の上を天柱水
あり（十六日十八日よりカーマ減）（自白下山崩れ上水桶づぶき水）（月の餘絶う昌平橋筋
遠橋危く和泉橋の仮橋左流まで十日より大川を住ぬ小保原の水立ても（一）水住大橋往來當
モ拂ひ宿軒近水あり幸所深川の家屋を流れ平井支地邊水（支三尺と云大川橋あ玉橋危く

十六日往來多々十七日至新大橋中の間に流失水代橋古方橋流失隅田堤二方橋或ひ不押切男女江戸へ向けた國橋を渡り迹あり淺草辺へ船を停めり吉原の麻へ水より雜司谷大水そ陸道人立一は谷牛込邊へ立ち水あればも一あ日水まで多く難儀せり、其除石垣等の崩れの移すをいとむべく官府より助船を出し老弱を救へられ十分あふ雨露小舟一小舟を建られ貧民を救へる十九日より晴天とあり廿日より水さへ少しくて幸不深川へ船法へ小舟圓舟を立近處の洪水へとふゑゝく葉紙と足りて水久しくなつてゐる。

更相の船移続く船價はまうじとぞ

○夏より冬ぶり諸國例體甚に困窮す○七月月中旬江戸中榜一油賣切
○浅草八月院門ああう市と通りの菓辭の根を以割麦の如く割裂し
支食と一ス葛の如く割裂して食ねても糊とも用ひ方ニ至る。官許を
ゆく九月の末より左ノ船乃迄も賣弘む○青山村太系の轍ヶ橋より江
涯より權太僧於何處とぞいひ古き碑あり畠にててのみ不を候太系といひ脇
應二年七月九日と云ふ事碑を安堵大権現と家む今年何とぞ
う京諸人多うりとぞ

天明七年

正月十六日佛人木丹平（ゆき） 東方廣博中

○正月十七日登八時青山より

出大西南大風權左京鮫（さめ） 極千日谷辺延燒

○二月角船人移延燒雲太

陽つ十三面忌の時を守護神鷹狩方歩の深川水代ち八幡宮の後ふ雲右房

つう家の太夫等しき碑を立る天恩孔平文を撰む

○二月八日医师山岡園南卒

辛亥才名正珍林家俊詩化よ名なり

○三月廿九日佛人珠朱居士卒（あらわ） 名師光号百花

谷中東名るキ葬れ

小舟

○五月帝龍舟寫寄谷瀬曼寺親高坐一帆政松草太鶴退治の圖を

画す額を納む

○由り人あれと古画を洞をせる不く人物の活動普通の画匠の如ふ小舟

が

○五月あつて米穀ひ舟ふゑくを價半涌一市中の番木舟も售り

あつて門戸を開き廿日より廿九日迄雜人米肆酒店を御米穀を扱ひ

たる家々を打撻以事夥一此時人の大苦患なるふ家作墨錢を打ひて生傷死

る者多きとぞ

宮麻より巖へ制の町もあても竹柵を據へ數々固巖室あり一六
暫時は居ねり〇五月賤民正教とて金子を徴り六月米大豆下並を以て
貰ひあらる〇八月十二日磨學若小沢葉江卒名政敏称多門別也〇八月廿日
書家伊藤老林卒家万年号匡山〇八月廿二日谷中感禱も代内ふ於く
東叡山時の種を修改む月月廿八日善官時照了撞く〇九月七日俳諧師
雲中庵薦太平七十岁大島氏名陽喬空慶居士〇九月十二日井の水妻うりこ
ふ狀言ひろまる〇土日九日晩夕刻五吉原角町より出火して廓中殊す
火燒亡花川戸近敷焼假名大橋例深川新地八幡町中間萬承町立端本多
えめぐのち居の是がみづうそひよしわらじまほ宅留火〇九月廿一日小波瀬の屋久
○林の林奈九十月か延る再延引け十二月三日小波瀬の屋久を燃る

天明八年戊申

正月元日大雪降〇近川廣東人參賣買古停止ありしをゆる一七

○四月朔日より深川海舟もあく身延山祖師開帳〇四月十五日より淺草
店ヨシ一池上旅主祖師昇帳〇四月廿日夜戌刻光物花入登の如く
○五月八日儒師大江維翰卒東師の子は資衡が子也〇六月十二日二代目英一峰卒
西江光西江光〇七月十六日書家植惣李潔卒名株号然居士〇八月廿一日書
家園敬明卒号東山林務翁〇十二月寺院より命一ぬひ浅間山焼奥州
飢餓度廻閑東出水系於大火死溺死おび褐小罹りしもの為不施縊鬼
を修めしらる江戸の本所田向院小松川仲臺院より本於大火とりて今年正月晦日洛東
風栗过より出火して洛中洛外大内と内外よりこの大火の事と委曲よ
基一ノ花経葉於物と影せる枝を三巻あり
又太典禪師平安寺の記をうらする

此年間記事

天明の頃名家△儒家金嶽旭山・芝山・北海・雀鳴瓶山△詩人西野・僧
六如名慈周六如名慈周△書家其寧東江朝和改嶺韓天壽牛山△和歌千蔭

春海自寛重欣 佐田瑞香林 △画家宋嵩石嵩谷嵩溪芙蓉

山魯
秋山
△俳諧蓼太完東
研齋殊東澤署金羅貫

吉武後平白雄△狂哥四方赤良
朱樂菴紅元の本物跡 大狂裏住

宿在飯盛、席席初生都
猶有金持、きら綿襪△戯作者通多故三

二窓川東町 芝全文、万象亭 山人 唐東三和右衛門を越化者

の六家様とひアミ外可矣七珍万宝萬の唐丸觀水黨火阿芝榮於下
幕末

石上あらそて阿多くすり△江戸津彌壇他老紀の上太郎第名か亭
鬼外

松貫四客揚岱玉泉雲鬼服并治焉馬空朴多
琴曲山田檢校

△八人藝川島哥令狂歌の才子小哥遊あり○天明の時代に之を表す

諸物とひよきをもむ。○光明時代のもあつねを集めて戸名帳康子と
合算の画外のうなづき

歌せらるる紙あり
丁九年内
空同集一二を記也
△味喫齋元徳△布也鞠室

This image shows a vertical strip of aged, yellowish-brown paper, possibly from an old book cover or endpaper. The paper has a textured appearance with some minor discoloration and wear. On the right side, there is a decorative border consisting of stylized tree branches in brown ink, which are symmetrical and extend from the top towards the bottom of the strip.

△奇妙五尼鑾飄△袖明紅鸞△西木易服△本町益圓日東瓦灵香△破空塗物△清水夏之痕綻△初化作△赤坂丸丸杏△淺草茶釜△廿二日之旅△櫻齋元菴筆△赤方歩△所秀智子△浅草義市

湯島書人祭のれりのくに淡ま新進院伍倍子
あるこの歳世縁を海へともこま零ハ
○料理茶屋行れハ葛西太郎牛乳の事

太東道筋四郎 日本秋葉社
武秀臣權三郎 日本麥斗秀
甲子屋 売四季菴 中條
二郎茶寮 鈴代

永樂ちりふいせ町
百川 素川家
朴屋宗助 徐川
比林やことひの江戸料理屋の鬼首りとも大慶みうらのド宗助
朴信と号す薩摩一之浪所跡とある山の茶多々小向のゆきとひの

お被さううべー危丁ふ名をゆる者かへてもうの好幸ふま家の徳音美いそく致亨庵二三ヶ所鞠湯まで
搖ふうまくひふもとくあはいひへ或表うつ空究覽じいづ文字を傳承あへる扁額をゆきめせんの匾額

も皆こゝへ逃ひ入り、を覽政の旅沐浪がそこへ來てゐる。かほりくあり、一
多處に旅宿何處ふよへ一人ありとぞを定め、郡を覽るの意也。同時危丁ト名えられたる三官

端式升や宗助の二郎吉傳の中西よひて更に三年後より
の六如菴詩鈔が西行の原稿を賦する所あり安永天保の頃の心氣より確かく鳥有と考へぬひむじ

洲寄茶樓寓目

西山突兀擣天立，南地炎蒸吞潭闊。指點虛無情漫切，欲鞭鯨背問蓬萊。

○勅造比翼丸芝八寶町御田様大工町より出る是又縁く清草園茶町門三番門より北之橋御内宿あり
○テヨロといふ事屋敷女下谷度小路西教高松町内提灯店佐店度極もあぬ因茶邊を外橋又ふりしが

寛政八年
二月○下谷正燒ち庭中楓樹數株ありと毎秋斜陽を惜むの名所としてり
昔ハ紅葉つゝといへぬものと云ひて有程そぞーとあり○彌貫井の事昔ハ文ふ
か一中古より不詳始りされど武家よりこれまへて價九金三四百あと費ひらけ
左市中より大商家よりて碑ひ立つて石の碑よりや大坂より井戸姫工まで
簡易の法を以て速よ極り價も又直に近いへに戸中喰抜井をくわへ町每ふ
たゞこれあり 元禄の江戸承子小桶町は築の井といふがうれしかば冷ひき日中桶、又桶の新橋
市中には富家の主庭技の井を穿て深水のみをうきて子孫がゆく歲ふせのく林と簾の
井とりふとだせうとねらすも深井のまくらべーとてかみべー又元禄の江戸承子井かー砂利場
田園のあくろとく汲みうそと化保主空文左衛門桶後尾池屋深十井方とて始てぬき井をうそせ
しを價数百金を費せを時の人安達とせり水深冷らしを井戸ゆき中の町の承子井を掘り
通の届りあるが水深冷らしとて天明の始より承子烏丸批櫻春深室井引○松牛引の女藝者振袖
の衣類を着ての作田依柄本町山東となり料理屋とくシラホク料理をうそるあらわく料理の部で露番
吹わのひよりせかひれうら波花の先帰るあらわく料理施向爐となり至底とてかくへぬ和羊持よひつ
○天啟中狂お猪ふれうら波花の狂おを集めて万載集植ねお猪方載集方種美多渠集あらわの
を沿うて生垣の集数をかげば俗世小引れう

武江年表卷之六終

